科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー ：哲学と社会価値――人文系産官学連携の最前線―― ILAS Seminar :Philosophy and Social Values――The Forefront of Humanities-based Industry-Academia-Government Collaboration――			担当者所属職名・氏名	文学研究科　特定講師 五十嵐　涼介		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	受講定員(1回生定員)	15 (15) 人	配当学年	主として１回生	対象学生	全学向
曜時限	火5	教室	綜合研究2号館第11演習室 (本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	哲学 / 人文学 / 社会科学 / 産学連携						

[授業の概要・目的]

従来の産官学連携は理工・生物系分野が中心であったが、産業構造・ビジネスモデルが目まぐるしく変化する現在においては、我々の持つ価値観や人間・社会観を扱う人文・社会科学の重要性がにわかに注目されてきている。しかしながら、人文・社会科学系の産官学連携はこれまでの前例も少なく、そもそもどのような価値を社会に対してもたらすのかという点についてもまだ明確化されているとは言いがたい。

このような状況の中で、京都大学文学研究科哲学専修では、出口康夫教授を中心とし、多くの企業・行政と共同研究を推進している。本セミナーでは、これらの事例を参照しながら、哲学を中心とした人文・社会科学系産官学連携に関する諸問題について議論を行い、今後の望ましい連携のあり方について検討する。

[到達目標]

人文・社会科学の産官学連携の歴史と現状をケーススタディ・ディスカッションを通じて理解し、学問としての人文・社会科学の展望や望ましい産官学連携のあり方について批判的に検討ができるようになる。

[授業計画と内容]

基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいなどに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。

第1回　ガイダンス
第2回　京都大学哲学専修における事例紹介（１）
第3回　京都大学哲学専修における事例紹介（２）
第4回　京都大学哲学専修における事例紹介（３）
第5回　京都大学哲学専修における事例紹介（４）
第6回　産官学連携の現状
第7回　これまでの産官学連携
第8回　人文・社会科学が生む価値とは（１）
第9回　人文・社会科学が生む価値とは（２）
第10回　人文・社会科学が生む価値とは（３）
第11回 人文・社会科学が生む価値とは（4）
第12回　事例分析（１）

ILASセミナー ：哲学と社会価値――人文系産官学連携の最前線――(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：哲学と社会価値──人文系産官学連携の最前線──(2)

第13回　事例分析（２）
第14回　人文・社会科学と産官学連携のこれから
第15回 フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（50点）および期末レポート（50点）により評価する。平常点は、主に授業中に行われる議論への積極的な発言を評価する。

[教科書]

南了太 『人文社会系産官学連携：社会に価値をもたらす知』（明石書店, 2023）ISBN:978-4--7503-5517-7

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

https://k-philo.org/ja/(京都哲学研究所)
https://www.smart-we.bun.kyoto-u.ac.jp/(JSPS学術知共創プログラム)
https://www.smart-elsi.bun.kyoto-u.ac.jp/(JST-RISTEX RInCAプログラム)
https://www.rd.ntt/research/hil20211200.html(NTTとの共同研究)
https://www.money-design.com/news/detail.php?id=333(お金のデザインとの共同研究)

[授業外学修（予習・復習）等]

特に予習等は必要としないが、回によっては事前課題を課すことがある。

[その他（オフィスアワー等）]

教員に対する連絡は以下のメールアドレスに送付すること。
ryosuke.igarashi@bun.kyoto-u.ac.jp